

第4回教育改善交流 i *See2007

シンポジウム・ワークショップ参加報告

首都大学東京 都市環境学部 材料化学コース 1年生
長谷部 翔一

平成19年9月8日、岡山大学にて開催された第4回教育改善交流に首都大学東京の学生代表の一人として参加してきました。この交流会では、主に大学教育の改善についての話し合いが行われ、テーマに沿って意見の交換や、ディスカッションをしました。

当日の流れは午前10時から昼食をはさんで、午後6時まで話し合いを行うというものでした。事前に決定されていた各テーマごとの大グループに分かれて、その大グループの中でさらに小グループに分け、テーマについて小グループで意見を出し合い、それを推敲し、大グループで各小グループでの意見を発表しあうという形式で進められました。

大グループのテーマには、

- 三重中京大学
『英語。やキャリア対策（SPI漢字など）の科目は携帯用ゲーム機ソフトで単位認定を』
- 兵庫教育大学
『学生による学生支援のアルバイト化』
- 静岡大学
『なんできみは今、そこにいるの？』
- 名古屋大学
『学生に合わせた教育内容の削減について』
- 東京大学
『大学教育への学生参画2.0を考える』
- 大分大学
『君は授業に出る？出ない？』

の6つがありました。

私の参加したテーマは「大学教育への学生参画2.0を考える」というもので、学生が主導する企画を自分たちで考えてみよう、という趣旨のものでした。

小グループに分かれる前にこのテーマを提案した学生の方のプレゼンテーションが行われました。そこで学生参画の「これまで」と「これから」について話されました。これまでの大学教育への学生参画は授業評価アンケートや学生主体の委員会などによって学生の意見を吸い上げ、授業改善に生かすという方法がとられてきました。

つまり、学生は大学教育に受動的になりがちだということです。そこで、これからは学生が主導して参加することで学生参画がさらに伸びるのではないかと提案しました。実際に名古屋大学物理学科では学生がカミオカンデツアーというものを企画・運営し、実現させたとのこと。この活動により、教員に学生が何を学びたいか、何を楽しいと感じているかを伝え、それが授業へフィードバックされることが期待されています。

プレゼンのあと各々の小グループに分かれ、グループごとに学生主体の取り組みはどのようなことができるかということ話し合い、企画を考えました。私たちの小グループでは、地域に根付いた文化や特色を追うイベントや、企業の社長などの著名人の講演会、また、自分の大学のOBを呼んだ座談会などを企画してはどうだろうという意見が出ました。特に座談会についてはたくさんの意見を出し合い、より深いところまで議論を進めていきました。話を進めていく段階で、「ライフデザイン」という観点で話をしてもらえれば、学生の興味を集めやすいのではないかと意見が出ました。というのも、教員は生徒一人一人の「生き方」までは指導できない、だからOBの方々の話を聞くことで、自分の将来をよりリアルに想像できるのではないかと考えたからです。実際には講演してもらう人をどう選ぶのか？費用はどうするのか？講演をしてハイ終わりでは文化祭のイベントと変わらない・・・などの問題点があって、このような問題点を学生や教員の様々な視点から指摘され、より議論が活発で深いものになり、こういうところから良いモノや企画が生まれていくんだな、ということを実感させられました。それから、大グループ全体で、小グループごとに出た企画を発表していきました。他のグループでは、専攻でない科目の授業をその科目が専攻である学生に授業してもらう、学生授業や学生主体のスポーツ大会など興味深い企画がたくさんあり、レベルの高い学生がたくさんいることに驚きました。

その後の懇親会で他大学の学生や教員の方々とお話しする機会があったのですが、どなたもFD活動に高い意

識を持っていて、首都大でもこういう考えの学生がもっと出てきてくれたらいいなと感じました。

この交流会に参加したことにより、自分がいかに普段何も考えずに大学生活を送っているのだなということを

痛感させられました。しかし、これをきっかけに今後積極的に首都大学東京のFD活動に貢献していけたら、と思います。

